

## 2 富士山の世界文化遺産登録を目指して (静岡県からの) お知らせ

富士山が世界文化遺産としての価値を持っていることを、歴史・文化・信仰・自然など様々な面から検証するため、専門家や有識者による学術委員会で審議・検討を進めてきた「暫定リスト素案」が完成しました。

日本の「暫定リスト」(※1)入りを目指し、静岡・山梨両県知事により国(文化庁)に提出(11月10日)しました。



【学術委員会】



【「暫定リスト素案」を国に提出】

(※1 日本の世界遺産候補であることをユネスコに対して示すリスト。少なくとも登録推薦を行う1年前までにユネスコに提出する。)

### (1) 登録に向けた今後のスケジュール

#### 暫定リスト登載

国では、文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会の審議を経て、関係省庁が協議のうえ「暫定リスト」追加候補資産を決定し、ユネスコ世界遺産センターに提出します。その後、ユネスコ世界遺産委員会が「暫定リスト」追加候補資産を正式に決定します。

#### 推薦書提出

県、市町村が中心となり、世界遺産推薦書案を作成します。国はこれをもとに推薦書を作成し、ユネスコ世界遺産センターに提出します。

#### 現地調査

推薦書が受理されると、ユネスコの諮問により、イコモス(※2)が推薦書に基づき現地調査を行い、補完資料の作成や保護管理体制などについて必要な調整を行います。

(※2 国際記念物遺跡会議。各国から推薦された物件の調査を専門的な見地から行う。)

#### 世界遺産登録

現地調査やその後の審議結果を踏まえ、ユネスコ世界遺産委員会において、最終的に登録決定されます。

## (2)「暫定リスト素案」の概要

# 資産名称 富士山 (Mount Fuji)

### 概要

富士山は、日本列島の中央部に位置していることから、古くから周辺を多くの人々が頻繁に行き来していた。標高3776mの日本一の高さを誇る独立峰で秀麗な山容を持つ円錐型の玄武岩質成層火山であり、大量の溶岩流出等により形成された広い裾野に展開する数多くの溶岩洞穴群・溶岩樹型群や湧水群のほか、広大な原始林などの豊かな自然が存在する。

古来、人々は、富士山の圧倒的な存在感から神聖さと崇高で畏敬の念を起こさせる壮大な美を感じ、多様な信仰の場として崇拝してきた。また、広大な裾野から立ち上がる雄大なその姿は、創造的な優れた芸術作品を生む母体として多くの人々に愛され続けている。

さらに、広大な裾野では、人為的な管理が行われた草原等の自然を活かした土地利用がみられ、自然と人間の共生を継承してきている。



富士山は、長く遥拝の対象として神聖視され、平安時代初期(9世紀)には、山麓に富士山の噴火を鎮めるための「浅間神社」が建てられた。

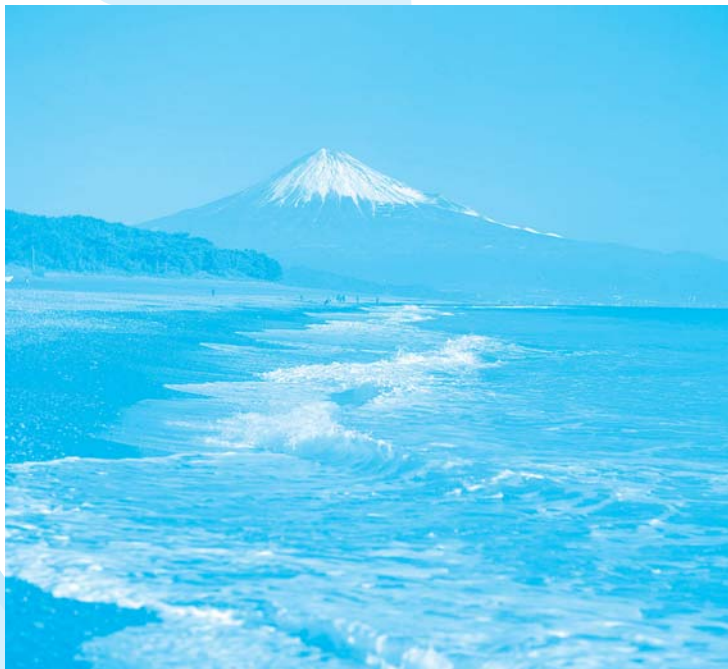
その後、平安時代後期(11世紀)には修験道の道場となり、室町時代には村山口(大宮口)、吉田口などの登山道も開かれ、富士山は登拝する山として一般庶民に広く知られるようになった。それに伴い、各登山道には登拝者を宿泊させ、登拝前の神事を行い、登拝に必要な準備の世話をする「御師」や「坊」が整えられた。

近世になると南麓の村山口(大宮口)や須山口には修験道の先達にとまなわれた登拝者が多くやってきた。一方、室町時代末期に現れた長谷川角行を開祖とする「富士講」が、江戸時代中期、江戸を中心に大いに盛んになり、北麓の吉田口などでは以前にも増して多くの人々が登拝するようになった。

富士山は麓から山頂に向かい、俗界を表す「草山」、俗界から神の世界への過渡部分である

森林限界までの「木山」、火山礫で覆われた山頂までの神仏の世界であると共に、死の世界を意味する「焼山」に区分されている。富士登拝とは、俗界から死の世界を往復することによって、この世の罪と穢れを消すことを意味した。このような独特の信仰登山の様式は、今日においても形態を変えながらお命脈を保っており、毎年7月8月の夏季を中心として多くの登山者が訪れている。また、現在でも登山道周辺には信仰に係わる祠、石碑、各種の祭礼などがみられる。

一方で富士山は、雄大な独立峰としての山体の美しさ、噴火や山頂に見られる積雪等の俗世間から超絶した風景に加え、三保松原などに代表される展望地が多々あることにより、古くから多くの芸術作品を生む母体ともなってきた。日本最古の歌集である「万葉集」をはじめ、古くから和歌や芭蕉、蕪村の俳句など多く詩歌の題材となってきたほか、平安時代後期（11世紀）に制作された「聖徳太子絵伝」などの富士山を描いた数多くの絵画作品がある。特に江戸時代に葛飾北斎や歌川広重などによる多くの浮世絵には、様々な視点から望む富士山の姿が活写されている。



これらの芸術作品は、海外にも広く知られ、影響を与えてきた。また、近代以降も小説、詩歌、絵画、写真などのモチーフとなり、文化創造の源となっている。

このように富士山は、自然崇拜に端を発し、仏教や修験道の影響の下に日本人の精神活動において欠くことのできない場であるとともに、芸術を育む母体としても重要な役割を果たし、自然と人間との独特の関係を築き上げてきた。

さらに、富士山は人々の精神的拠り所となり、外国にも日本の象徴と認識されるようなかけがえのない唯一の存在として、今日も生き続けている希有な文化的景観である。